

【山崎名誉主宰の俳句】

いちにちは

山崎 聰

わんにゃんと犬猫さわぎ山の春
天気晴朗にしてマネキンの裾の襞
新しい友来て笑いみなみかぜ
螢の夜ひとりずつ消えてゆき闇へ
雨のあと晴れ夏柑の実るころ
もうすこし遊んでいこう秋だから
山に雨降り里にも降りて遠い秋
迷わずに赤い花摘み秋の午後
いちにちは眠りいちにちは秋の鯛を食う
このごろは少し老いたり山に雪